



10. あなたは山まわり、里まわり、どちらにします？

私の土壌調査は年間140日の出張、70日で一時帰省が認められました。あとは調査日程にしたがって1日200haのペースで調査を進行させました。

1日の調査結果は夕飯の前後に日誌と土壌図を作ることです。これを怠ると前日の結果を忘れてしまいます。ともあれ汗で汚れた衣服は洗濯する暇がありません。そこで里まわりの人には洗濯をお願いして、次かその次の宿まで届けていただきました。山まわりの人には唐鍬とスコップを持って私達と山へ調査の同行をお願いしました。

晩秋外業を終えると必要な土壌実験を行い、今年度の土壌図と報告書を完成させ、次年度の春に再び外業へ出かけることを繰り返しました。

このような状況の中で年間を通して四季の自然にふれ、学ぶことができたことは、人生の宝物です。

土壌調査員は一に体力勝負で、**大変な仕事です**。地下タビは年間3～4足消費します。仕事は人が行います。チームワークを保ち、お互いに信頼し、良い環境状況のもとで仕事をしたいものです。

11. 土壌調査は汚れる仕事

農林水産業は汚れる職場です。土壌調査は土が相手ですから夕立などに遭うとますます汚れます。仕事を終え、公共機関を使った帰路の満員電車の中のことです。満員電車でも私の周囲はゆったり。泥がついていて、汗臭いことらしいからでしょうか。

宿に着き「今晚お願いします」と挨拶しますと、私達の上下に視線を走らせ「本当に今晚お泊りのお客さまですか？」と。

常識外れの風体をしている私達もいけないかもしれないが、人は外見で判断してはいけないと痛感させられ、上司の博士も苦笑いしていました。予約を頼んでおいた所長さんが訪ねて来られて一件落着、宿の主人も平謝りでした。